管機連Ｄａｉｌｙ Ｎｅｗｓ

2026年10月1日（木）

≪　今日の主なニュース　≫

～　日経ニュースなどを中心に抜粋　～

◆8月の鉱工業生産指数1.7%低下、2カ月連続の下落　自動車振るわず

・経済産業省が発表した8月の鉱工業生産指数（2020年=100、季節調整済み）速報値は102.6となり、前月から1.7%下がった。普通乗用車や小型乗用車などの自動車工業が振るわず、2カ月連続の低下となった。全15業種のうち12業種が低下し、3業種が上昇。生産の基調判断は前月の「一進一退」を据え置いた。台風や熊本地震などでの稼働停止が響いた。

◆1～8月の老舗企業倒産、過去最多の112件　後継者難や物価高で

・帝国データバンクは業歴が100年を超える老舗企業の倒産件数が、1～8月で112件だったとの調査結果を発表。前年同期比で24%増え、2007年以降では最多。後継者難などが影響。創業、設立から100年以上の老舗企業を対象。業種別では「製造業」が最も多く34件。「卸売業」（24件）、「小売業」（22件）が続いた。

◆声にもパブリシティー権、初の司法判断　津田健次郎さんの請求は棄却

・声優の津田健次郎さんがTikTokの運営会社に対し、生成AIで自身の声を模倣した動画の削除を求めた訴訟で、東京地裁は声についても著名人の財産的な価値を守る「パブリシティー権」で保護されるとの初判断を示した。高橋裁判長は判決理由で、一般論として人の声は「肖像と同様に個人の人格の象徴と言える」と指摘。

≪　業界ニュース　≫

～　日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋　～

◆パナソニックHD、29年までにヒト型ロボ開発へ　電池の安全性生かす

・パナソニックホールディングスはヒト型ロボット（ヒューマノイド）を開発。榊原彰グループ最高AI責任者（CAIO）が日本経済新聞の取材に明らかにした。2029年までの製造を目指す。まずは工場の生産ラインや倉庫で使うロボットを想定する。ロボを動かすための人工知能（AI）モデルなどの研究開発に取り組み始めたとした。

◆8月の国内建設受注額3%増　3カ月連続プラス、官需押し上げ

・日本建設業連合会が発表した8月の国内建設受注額は、前年同月比3%増の1兆4711億円。単月でのプラスは3カ月連続。民間からの受注額が減り続ける一方で官公庁からの受注は堅調。民間からの受注額は5%減の1兆1496億円で6カ月連続マイナス。製造業は33%増の2492億円、非製造業は12%減の9003億円だった。

◆ペロブスカイト太陽電池、前年比2倍超に　世界の市場規模

・調査会社の富士経済は薄くて曲がる次世代太陽電池「ペロブスカイト」の市場予測を発表。2026年の世界市場の規模は前年比2.3倍の1088億円を見込む。30年ごろから量産が進み40年には3兆6854億円まで拡大すると予測。中国では新興の極電光能（ウトモライト）が、25年に同国東部でペロブスカイトの量産ラインを稼働させ日本向け販売にも意欲的。

≪　注目商品　≫



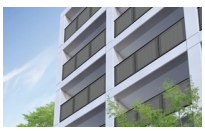
■パロマ、美観を維持するビルトインコンロ

・熱による変色を低減し美しさを長く保つ「クリスタルキープゴトク」、従来と比較して「ラ・クックグラン」使用時のグリル調理の煙を約99%カットする「スモークカットグリル」を新たに搭載。「レンジフード自動風量調整機能」、「ヒートカットトップ」、「鍋なし検知機能」など機能性を高めた。



■耐荷重4.5t、実用性＋デザイン性を備えたガーデンパン

・水生活製作所は、実用性とデザイン性を両立させた立水栓用ガーデンパン「ラウンドパン深型」を発売。外側側面はふくらみのある曲線で内側底面は排水口に向かってゆるやかに傾斜。さらに下部に立ち上がりをつけ、デザイン性・実用性・清掃性・メンテナンス性を備えた。



■アクティオ、圧送配管支持架台「配管ジョッキー」をレンタル開始

・生コンクリート圧送時の配管の振動や跳ね上がりを抑制し、作業負担を軽減する圧送配管支持架台「配管ジョッキー」のレンタルを開始。本体上部に設置したローラーにより生コンクリート圧送時に配管にかかる衝撃を逃がし、配管の激しい揺れやブレを吸収。